千曲市立東小学校だより　　平成30年11月13日

里　の　大　地

ＮＯ．８
文責　酒井

立冬を迎え、学校のケヤキの木も一気に葉を落とし始めています。天候にも恵まれてマラソン大会も実施することができました。多くの声援を受けて、子どもたちも力走し、大会記録が更新されたり、自己ベストをだす子どもたちが大勢いました。また、音楽会の折には大勢の保護者の皆様、ご家族の皆様にご来校いただき、子どもたちの演奏を聴いていただき、まことにありがとうございました。音楽会の様子や校長講話等について紹介させていただきます。

聴く人の心に届く演奏をした音楽会

大勢の保護者の皆様やご来賓の方々にお越しいただき、音楽会が開催されました。学校評議員の皆様からもお声を寄せていただき、今年の音楽会は、構成に工夫があり、子どもたちがとても楽しそうに、また表情豊かに演奏していたのが印象に深く残ったとのことでした。歌から合奏への移動も流れの中で動く工夫があったり、かけ声が随所に入る歌だったり、歌にこめられたことばの意味やその背景となる学習をしたりして子どもたちが曲に思いをこめて演奏し歌うことができた音楽会でした。

きいてくださるご家族や地域の方々にもそうした思いが届いたのではないでしょうか。

どの学年も子どもたちの実態に合わせて曲を選び、一つ一つの音や旋律、リズムや強弱といったものを大事にして練習を重ねて、自分たちらしい演奏をすることができたと思います。毎日のように楽器を持ち帰る子どもたち。家で何度も練習したことと思います。そうした中でご家族の皆様に励まし等お支えをいただきました。ありがとうございました。

＜あんずホールにて＞

校内の音楽会の一週間後の２６日（金）には、あんずホールで千曲市の６年生が一堂に会して合同音楽会が行われました。市内の９校の中で最後に出演し、音楽会から更に磨きをかけた見事な歌声を披露した６年生でした。ご来賓の皆様からも東小学校の歌声は伝統的にすばらしい。今年はまた一際すばらしかったとのお声をいただきました。歌う気持ちが姿となって、そして歌声となって現れたすばらしい演奏でした。

森将軍塚祭りで見事な演奏を披露したトランペット鼓隊の子どもたち

毎年、出演の依頼をいただき、トランペット鼓隊の子どもたちにとって大事な発表の機会となっている『森将軍塚祭り』に１１月３日（土）見事に晴れた青空の下で、演奏をしました。屋代駅からパレードをしながらの演奏を屋代小学校と交代で演奏していきました。
広場に着くと、野外ステージ前で、今年取り組んで来た『威風堂々』『宇宙戦艦ヤマト』の２曲を紹介しながら演奏しました。しっかりとのびのある音色で見事に演奏ができました。会場にいる大勢の方から盛大な拍手をいただくことができました。演奏し終わった子どもたちも達成感からでしょうか、晴れ晴れとした表情でした。

なかよし旬間に寄せて　校長講話より

今日は、なかよし旬間が来週から始まるので、なかよしにかかわる話をさせていただきます。

私が初めて学校の先生になって仕事を始めた学校は、諏訪養護学校という学校でした。高等部という高校生６人の担任となりました。いろいろな障がいを持っている子どもたちが来る学校で、入学式に校歌を歌いますが、子どもたちの中に校歌を歌うことができる人はとても少ないことに驚きました。病気などによってマヒがあったり話ができなかったりする子どもたちが多くいたからです。今まで、あたりまえにできると思っていたいろいろなことが、実はとても大変なことだということを子どもたちにかかわってみてわかりました。例えば、歩くこと。みなさんも普段はあたりまえのように歩いていますよね。でも、怪我をしたりすれば、少しの距離５～６歩でも歩くのが大変ですよね。そういう大変さがいつもあるということをクラスのＳさんと出会うことで知りました。

Ｓさんは、生まれた時から皮膚の病気でした。少しでもこするとそこが傷になってしまい、化膿してしまうことになるのでした。中学までは、歩くことも難しく、家から出ることができなかったので、学校から先生に訪問してきてもらって勉強をしていました。　高等部に入学する頃には、少し動けるようになってきたので、電動車いすを使って学校での

生活をしてみようということになったそうです。訪問してくれる養護学校の先生の他には家族としか話す機会もなかったそうです。養護学校の高等部に入学をしたことで同世代（同じ年）の高校生と学校生活をすることになりました。初めは大勢の同じような年頃の人とかかわることがなかったので、とても緊張しているＳさんでした。どう話をしたらいいか。どういうタイミングでかかわったりよいかがわからなかったようです。口ぐせは「すみません。」いつも遠慮をしているＳさんでした。私も大学を出て先生になり初めてのことばかりで、この子どもたちにどうかかわっていったらいいのだろうと先の見えない日々が続きました。自分の心の内を振り返ってみると、子どもたちのことが「わからない。」だから『かかわれない。』そんな気持ちになっていたように思い返されます。

・この子どもたちがどう成長するのか見通しが見えない力不足
・一人一人の障がいへの理解不足
・子どもたちと向き合うことにこわがっていた自分
・たった３年しかない高校生活にしばられていた自分
・自分と世界が違うのではと思っていた自分

こうしたことから、子どもたちに一歩踏み込めないでいたと思います。そこから徐々に変わっていった自分がいました。

『見えないかべをつくっていた？』→『段々とその子らしいすてきなところが感じられるようになってきた』→『子どもたちにかかわることが嬉しくなってきた』

　Ｓさんもずいぶん変わり、成長する姿が多く見られるようになってきました。

　中学までのＳさんと高等部生になってからのＳさんを比べてみると大きな変化や成長がはっきりとわかるかと思います。

①移動の仕方：車いすとはうこと→電動車いすに乗り自分で行きたい所へ移動
　→かかとが丈夫になり、自分で歩くようになる
②話し相手：家族と訪問部の先生→同世代の友だち
③人とのかかわり：いつも遠慮→自分の考えを言う
④考え事悩み事：自分一人で考えている→仲間に悩みを打ち明けられる
⑤家の中だけの世界→スクールバス、一般のバス
⑥支えてもらう自分→仲間を支える存在に

こうした成長をしていくＳさんや子どもたちにかかわる中で、私の心のよせ方や働きかけ方が変わってきたように思います。

・成長していく子どもたちを応援したくなる
・もっと子どもたちのせかいを広げていくには　どうしたら？
・先生方といっしょに話し合ってより良い方向を見つけていく

先生方と相談し話し合うことで、やってみようということがいくつか出てきました。

①部活動をやろう・・・・中学時代にやっていた子どもからの希望から
②高等部バンド：ベントへの参加　　音楽会の合奏曲を地域のフェスティバルで

人前に立ったり　知らない人とかかわったりすることで自分たちでもこんなことができるという自信になっていきました。チャレンジすることで世界を広げた子どもたちは、キラキラした笑顔になっていました。そして私もいっしょに笑顔になっていました。この頃には、壁のようなものなくなっていたと思います。

　いっしょに笑顔でいられること　の嬉しさはこんなにもいいものなんだということを感じました。このなかよし旬間中、いっしょに笑顔でいられる　なかまとして各学級でいろいろな取組があると思います。笑顔でいられるために　一つ考えてほしいことがあります。ちくちくことば　と　ふわふわことばについてです。「～さんのせいで　だめになっちゃったじゃないの」　「～さんもがんばったよ。つぎはまたいっしょにがんばろうね」

どちらのことばが笑顔でいられると思いますか？　　ふわふわことばですね。

ふわふわことばがみんなを笑顔にしていってくれると思います。

どういうことばをかけていったらいいか、考えてみてください。

声援を力に成果を発揮して力走したマラソン大会

＜６年生＞

９月に予定をしていましたマラソン大会でしたが、猛暑のために練習時間がとれず、１１月に延期をさせていただきました。暑さもおさまり練習をする中で、力強い走りができるようになってきた子どもたちでした。前日の雨があがり、さわやかな天候の下で、大会を開くことができました。ご来校いただきました保護者の皆様の声援を励みに、子どもたちは力走して、自己ベストを更新する子どもたちが大勢いました。また、大会新記録や歴代のベスト１０に入るタイムをだす子も大勢いました。ご多用の中、応援ありがとうございました。

＜　２　年　生　＞

＜1年生＞　＜3年生＞　＜4年生＞　＜5年生＞

伝統文化を学んだ能楽教室

１１月１２日（月）観世流能楽師：松木千俊様がご来校くださり、６年生への能楽教室をしていただきました。実際に舞台で使われている面をたくさんお持ちくださり子どもたちも面をつけたり、謡を体験したりしました。重要無形文化財総合指定保持者である松木先生は、いろいろな学校へも行かれており、とても気さくに子どもたちに声をかけてくださいました。伝統文化の本物に接する機会は一生の間にそうはないかと思います。６０分間があっという間に過ぎました。般若の面が子どもたちには１番人気でした。